剣淵町をもっと知ってもらいたいんです
剣淵町観光マップ作成と剣淵いいもの広げ隊の活動を通して

北海道剣淵高等学校　未来のしんろ系列
2年次　根本　樹　　松浦　依舞姫
指導教員　八木　望　　三浦　学

序論

課題の設定
剣淵町の知名度、魅力の低さを解決したい

背景
絵本の館、桜岡湖（カヌー、ワカサギ釣り）、アルパカ牧場など、魅力的な観光資源があるにも関わらず、剣淵町がどこにあるのか、何をしているのか知らないという意見を耳にすることが多かった。

JRや国道の位置関係など、高校生の力ではどうすることもできない課題は今回検討しないこととした。

仮説・計画・行動

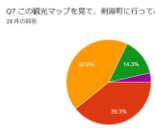
課題解決のための仮説
剣淵町観光マップの進化版作成
Instagramを活用した情報発信

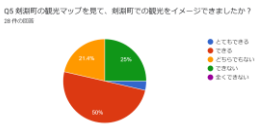
課題解決のための計画・行動
①自分たちで剣淵の課題を見つける
→観光マップの情報不足・自分たちが剣淵を知らない

②剣淵町の方々へインタビュー
→剣淵らしさを観光マップに盛り込むことが求められている

③現行の観光マップに関するアンケート
→味や感想など、
主観的な情報が求められている

→現行のマップでは、観光の
イメージができなかったり、
剣淵町に行ってみたいと思えない





④アクティビティなどを実際に体験、レビュー、発信

→知ることで、主観的な情報を発信することができた

⑤他の市町村の観光マップ分析
→高校生の感想が盛り込まれた観光マップはどこにもない！

⑥高校生が作る剣淵町観光マップの計画立案
→施設紹介ページ、食レポページ、体験レビューページ、その他

⑦高校生が作る剣淵町観光マップの作成
→フィールドワークをして
実際に感じたことなどを
観光マップに
落とし込む

⑧現行のマップとの比較アンケート
→高校生が行った飲食店の感想が入っていて分かりやすい
剣淵町で観光するイメージができた

⑨観光マップ配布

考察

活動で工夫できたこと
①客観的な意見や情報を取り入れること

②直接会って対話をすること

③魅力的な観光マップ作成のために必要な要素を考えること

高校生が主体的に動くことでより良い発信が可能になる

まとめ

高校生が作った観光マップ

感想
［根本　樹］
物を紹介するときは、まず自分が紹介する物について深く理解しないと上手く伝えることができないことを学びました。この学びから、自分たちが剣淵町の魅力を理解していないということに気付き、剣淵町の魅力を体験し、その感想を発信するという活動につながりました。その活動の1つとして、17年間剣淵町に住んでいても知らなかった素晴らしい景色や心地よく走れるサイクリングロードがあることを知ることができました。このように、自分たちが剣淵町の魅力をよく理解したことで、作成した観光マップが剣淵町の良さをより伝えられるものになったと実感しました。

［松浦　依舞姫］
主体的に情報を発信することの重要性を学びました。私たちが観光マップ作成を行うために町内の様々な場所へ足を運び、剣淵町の魅力が多くあることに改めて気付くことができました。その時、町内の人でさえ気付いていない魅力が多いことが分かり、剣淵町の魅力を発信する活動があまり行われていないのでは考えました。実際に、絵本作家さんがデザインしたポストの除幕式で「ご当地ポストが3つもあるのは全国で剣淵町だけ」ということを知り、魅力的なことだと思いました。やはり、魅力はあっても発信が行われていなければ人々に伝わりません。自分たちが知っていることはもちろんのこと、主体的に情報を発信していくことが重要だと学ぶことができました。

今後の展望
①フィールドワークの実施継続

②観光マップへの落とし込み継続

③アンケートを実施し、発信内容を精査する